

本日のプログラム

<ガバナーの紹介>

吉澤ガバナー補佐

齊藤二郎ガバナーのご紹介をいたします。川崎西RCより重責を担う3人目の地区リーダーです。ロータリー歴37年、地区幹事をはじめ、ほとんどの委員、委員長を歴任した経験豊かなガバナーです。大山街道二子の宿の名門、齊藤家に生まれ、中央大学法学部を卒業後、1967年から現在まで民生児童委員を務めております。長年の地道な地域奉仕によって地元の信望きわめてあつく、川崎市の社会福祉のリーダーとして、藍綬褒章をはじめ数多くの表彰を受けております。現在、五宝住宅管理有限会社の代表取締役、川崎西RC（1969年12月入会）に所属。地区のロータリーを知り尽くしたガバナーです。本日の卓話、よろしくお願いたします。

<ガバナー公式訪問卓話>

国際ロータリー第2590地区ガバナー 齊藤二郎様

ただいま、吉澤ガバナー補佐より大変ご丁寧なご紹介をいただきまして恐縮でございます。当クラブは、1978年5月に川崎多摩RCをスポンサークラブとして創立されたクラブであり、私が所属しております川崎西RCの孫クラブといえます。本日、例会前に吉澤ガバナー補佐を交えて、当クラブの渡邊会長、井上幹事をはじめ、会長エレクト、関係役員、委員長、新会員の皆様方と懇談会をさせていただきました。大変有益で、率直かつ実りある意見交換ができたのではないかと思います。

去る10月24日に吉澤ガバナー補佐出席のもとに、当クラブのクラブ協議会を開いていただきましたが、その報告書並びに会長よりのクラブ活動計画の資料、クラブ活動計画書、その他会報など当クラブに関する書類を事前にいただき、一通り目を通して本日公式訪問をいたしました。会員増強は、碓井会員増強推進委員長を中心にクラブ内に会員増強チームを編成し、創立30周年を控え全会員で強力に、50名以上の会員を有するクラブの実現を目指していくということでございます。当クラブは、とくに年配の会員と壮年の会員がうまく調和し融和しておられるようです。さらに、親

睦と地域社会に対する奉仕活動がスムーズに推進されており、理想的な活力あるクラブ活動が展開されているのではないかと推察します。今後さらなる会員のホームクラブ出席の向上を期待いたします。ホームクラブに出席できないときはメーキャップを徹底していけば、一点の非もない素晴らしいクラブになるのではないかと思います。

さて、国際ロータリーRI会長、ウィリアム・ビル・ボイドさんのテーマからお話します。ボイドさんは、1959年から60年のRI会長ハロルド・トーマス氏に次いで二人目のニュージーランド出身で、現在、オークランド州のパ克蘭ガRCの会員です。1995年に現役を退くまでは、ニュージーランド最大の雑誌配給会社ゴードン・アンド・ゴッチ・マガジン社の総支配人で、スポーツマンでもあり、ラグビーの審判員を31年間なされたという経歴の持ち主でもあります。国際ロータリーのテーマ、“LEAD THE WAY”「率先しよう」について、「ロータリアンは世界を変える力をもっている」という固い信念をおもちです。ロータリーは地球村のリーダーで、ロータリアンはそれぞれの地域社会でリーダーの役割を果たしていただきたい。寛容と思いやりと誠実さを日々実践し、自らが手本を示すことによってロータリーの道を率先するようお願いしたい。さらに、ロータリアンとしてけっして現状に甘んじることなく、問題を他人任せにすることなく、自ら積極的に解決しよう、「率先垂範」でありたいと申されています。

そして、新しい会員がクラブを離れていく原因は三つあるとされます。クラブの管理運営が効果的に行われていないこと。会費に見合うだけの価値（精神的）の提供がなされていないこと。意欲を感じるような有益で実り多いプロジェクトを、地元地域だけでなく海外のクラブと共同して実施していないこと。つまり、会長をはじめ、クラブの役員の皆様の前向きな「率先垂範」が求められるのだと思います。

次に協調事項について。まず、「水保全」ですが、きれいな水がなければ作物もできず、子どもの健康を守ることもできません。次に「識字率の向上」。貧困